

。○。○。○。

下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2014. 9. 8

下水道機構の『新技術情報』 第155号

(公財) 日本下水道新技術機構 <http://www.jiwet.or.jp/>

。○。○。○。

今週 9/10(水)は下水道の日ですね。その日にちなんで今朝は、家から職場までの道中マンホールのふたの数を数えてきました。その数は18でした。ふたの図柄も興味深いです。神楽坂では風情ある石畳に配慮してふたも石畳風になっています。みなさんも下水道の日になんで、スタンプラリーならぬ、ふたラリーはいかがですか？

それでは機構メールマガジン『新技術情報』第155号をお届けします。

業務に、Tea Break にどうぞご活用ください。

◆◆◆トピックス◆◆◆

■インフォメーション

- ・ 9/18(木)「下水道管更生技術施工展第14回 2014 北海道」へ出展します！
- ・ 第58回下水道新技術セミナー(8/22@東京、8/29@大阪)を開催しました

■機構の動き

- ・ 今週は、9/11(木)に技術サロンを開催します

■Tea Break

- ・ がんばろう！（資源循環研究部 体重だけは成長させたくないXさん からの投稿です）

■まる子のゆいまーる♪

- ・ 今週は、茨城県より県内の下水道マンホール蓋の展示について情報をいただきました！

■国からの情報

- ・ 8/29 付下水道ホットインフォメーション

。○。○。

インフォメーション (最新の話です)

。○。○。

●9/18(木)「下水道管更生技術施工展第14回 2014 北海道」へ出展します！

おかげさまで当機構が公益財団法人して生まれ変わって1年が経ちました。これまで21年間で審査証明を行った下水道技術の実績を展示します。分野別の傾向を見ると

管路に係る更生、修繕、防食、耐震などの技術が多いことが分かります。

これらの技術の総覧や審査証明事業の仕組みと流れを掲載したパンフレットの最新号をご用意しています。相談コーナーも設けておりますのでお気軽にお立ち寄りください。

日 時：平成 26 年 9 月 18 日(木) 9：30(開会式)～16：00

※入場受付は 15：30 まで

場 所：ケーズデンキ月寒ドーム第 3 屋外展示場(入場無料)

※詳しくはこちら

⇒ http://www.jascoma.com/jigyo/gyoji2014/sekouten_2014.pdf

●第 58 回下水道新技術セミナー（8/22@東京、8/29@大阪）を開催しました

東京会場は東京都港区の発明会館、大阪会場は大阪市西区の大阪科学技術センターで開催し、両会場合わせて約 210 名の方が出席されました。

今回のテーマは「既存施設を活用した高度処理の推進について」です。現在、下水道の整備等により、河川等の水質は着実に改善されてきていますが、東京湾などの閉鎖性水域では、高度処理の遅れなどにより、赤潮等が依然として発生し、生態系への悪影響が生じている場合があります。また、観光資源としての水辺への期待は大きく、6 年後に控える東京オリンピック、パラリンピック大会において、多くの外国の方が水辺を訪れる可能性があります。そのようなことから、下水道の高度処理を進めていく必要があると考えますが、一方で、その高度処理は、一定の理解は得られているものの、費用対効果や消費エネルギーなどの課題も存在しています。このような状況にある高度処理の最新の情報について、専門家を講師にお迎えして、ご講演いただきました。

基調講演として東京都市大学工学部都市工学科長岡教授（東京会場）と京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター田中教授（大阪会場）、また、特別講演として国土交通省水管理・国土保全局下水道部白崎流域下水道計画調整官、さらに各自治体における事例紹介として、東京都下水道局計画調整部青山技術開発課長、久留米市企業局上下水道部 下水道施設課野口主任主事（東京会場）・森山主査（大阪会場）、福岡市道路下水道局計画部下水道計画課八島計画係長の各位にご講演いただきました。

本セミナーの講演ダイジェスト（基調講演・特別講演）を機関紙 WEB 版「ニューズレター PLUS」にて 10 月頃に配信します。セミナーの資料については、11 月頃会員サイトにアップをする予定です。

。○。

機構の動き （機構の行事予定です）

。○。

○平成 26 年 9 月 11 日(木)17：00～18：00

行 事：第 329 回技術サロン

場 所：機構 8 階 中会議室

ゲスト：横浜市環境創造局 下水道計画調整部
下水道事業調整課長 奥野氏（当日変更の場合有）

テーマ：『社会を取り巻く課題解決とヨコハマの発展に貢献する
新たな下水道事業戦略』

※参加お申し込みはこちら

<http://www.jiwet.or.jp/trainings/tech-salon/salon-form>

。○。

Tea Break （機構職員の感じるまま）

。○。

●がんばろう！（資源循環研究部 体重だけは成長させたくないXさん からの投稿です）

海外事業にチャレンジする日本の水関連企業に関するニュースを目にすることは珍しいことではなくなりました。

なぜ海外へ出て行こうとしているのでしょうか？それは企業が業績・規模・人材等の成長を追求しているからだと思います。人口減少が予想される国内市場の規模が再び拡大に転じることは考えにくく、国内だけでは成長の絵を描きにくい状況にあります。もし何かのきっかけで日本市場へ海外企業が入りやすい状況になれば、なおさら厳しい状況になります。

次に、なぜ企業は成長を追求するのか？現状維持ではダメか？という疑問が生まれます。この疑問に対する答えはいろいろあると思いますが、「衰退はしたくない。」は多くの人に共通する意見ではないでしょうか。企業が衰退する局面（業績悪化、規模縮小、人材流出、給与削減等）を喜んで受け入れられる人はおそらくいないでしょう。

今の日本のように市場規模の拡大が期待できない状況下では、成長を志向して頑張らないと現状維持さえ困難かもしれません。

成長するためには困難が伴います。困難を乗り越えるのに頑張りすぎて疲れきってしまっは元も子もありません。適度に休みながら着実に成長していきましょう。がんばろう！日本の水業界！

。○。

まる子のゆいまーる （皆様との交流の場です）

。○。

●茨城県庁で県内の下水道マンホール蓋の展示が行われています。

下水道の日の9月10日を含む茨城県下水道促進週間には、例年、茨城県内各所において下水道の普及拡大や、下水道の使用を促すための啓発事業を実施しており、茨城県庁舎内においても前年度の下水道促進週間コンクールで入賞したポスター、標語等の作品の展示や、下水道の仕組みなどに関連するパネルの掲示を

行い、下水道の役割やその重要性などを県庁舎を訪れる県民の方々に呼びかけているそうです。さらに今年は「茨城県下水道促進週間」（9月5日～12日）に合わせて、県内各市町村・組合の下水道マンホールの蓋の展示を8月29日（金）午後～9月12日（金）午前中まで、県庁舎1階中庭及び2階県政広報コーナーで展示しているそうです。

詳しくは下記↓

<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/doboku/01class/class12/event/H26manhole.html>

皆さまからの情報提供をお待ちしております！

提供はこちらまで→



jiwet@jiwet.or.jp

※テキストは原則400字以内。写真等はA4版にして原則2ページ以内。

なお、お寄せいただいた情報はそのまま掲載することを基本としますが、掲載の可否は機構にて判断させていただきます。

↓コチラからは、国からの下水道ホットインフォメーションを掲載しています。



下水道ホットインフォメーション（2014.9.5 国からの最新情報です）

送信元：国土交通省 水管理・国土保全局下水道部下水道事業課企画専門官 本田康秀



○8月16日から続く大雨等による被害状況などについて

下水道施設についても、福知山市、広島市等で被災があり、応急対応、復旧作業等を行っています。

→国土交通省災害・防災情報 (http://www.mlit.go.jp/saigai/saigai_140817.html)

○下水道部関係人事

9/1 大臣官房付・休職（公益財団法人日本下水道新技術機構下水道新技術研究所研究員）中島英一郎（インドネシア共和国派遣中）

参考：<http://www.mlit.go.jp/common/001053365.pdf>

★★★★★ ラインナップ ☆☆☆☆☆

●社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会 都市計画部会 下水道小委員会

- (第1回)、河川分科会 下水道小委員会(第1回)が開催されました【国土交通省】
- 第1回計画規模を超える局地的な大雨に対する新たな雨水管理計画策定に係る調査検討会が開催されました【国土交通省】
- 総務省「公営企業の経営に当たっての留意事項」の発出について【国土交通省】
- JICA草の根技術協力事業(地域活性化特別枠)『ベトナム国ハイフォン市下水道維持管理能力向上プロジェクト』採択内定【北九州市】
- B-DASH(管渠マネジメントシステム技術)ガイドライン(案)説明会のお知らせ【国土交通省国土技術政策総合研究所】
- 第4回流総計画再構築検討会が開催されました【国土交通省】
- 第22回「下水道循環のみち研究会」セミナーについて【(一社)日本下水道施設業協会】
- テレビ東京「未来世紀ジパング」(9/8、22時~放送予定)で、「世界を救う日本の水ビジネス」が放映されます。【国土交通省】

=====

- 社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会 都市計画部会 下水道小委員会(第1回)、河川分科会 下水道小委員会(第1回)が開催されました【国土交通省】
- 会議では、下水道事業の現状、課題及び諮問事項に関する基本的な論点についての議論がなされました。各委員からは、事業管理計画を制度化するに当たっての進め方、コンパクトシティ化との関係を含めた雨水管理のあり方、料金体系など将来の下水道の経営モデルのあり方などについての意見が述べられました。資料等は、後日国土交通省のHPにて公表予定です。

→ http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo13_hh_000252.html
http://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/s204_gesuidou01.html

<参考>諮問事項「新しい時代の下水道政策はいかにあるべきか」

- 財政・人材の制約の中においても、平常時・非常時共に各地域において最適な下水道の機能及びサービスを持続的に提供していく取組方策はいかにあるべきか。
- 水・資源・エネルギーの観点から、環境にやさしい地域・社会づくりに向けた推進方策はいかにあるべきか。
- 都市部における住民の生命・財産や経済活動を守るための浸水対策のあり方と取組方策はいかにあるべきか。
- 下水道が有するポテンシャルを活かし、我が国産業の国内外における事業展開を推進していくための方策はいかにあるべきか。

- 第1回計画規模を超える局地的な大雨に対する新たな雨水管理計画策定に係る調査検討会が開催されました【国土交通省】

「ストックを活用した都市浸水対策機能向上のための新たな基本的考え方」(平成26年4月公表)において、既存ストックの弱みと強みを評価した上で、計画を上回る降雨に対してきめ細やかな対策により被害の軽減するという考え方が示され、国土交通省は、新たな考え方の実行可能性調査(FS)を実施しています。「局地的な大雨に対する新たな雨水管理計画策定に係る調査検討会」(委員長:古米弘明 東京大学大学院教授)では、FS調査への助言、指針類等へ反映する内容の検討、新たな考え

方の水平展開のためのフォローアップを行います。第1回検討会は、9月4日（木）に開催され、FSの実施都市である神奈川県厚木市と愛知県岡崎市での調査状況や今後の取り組みについて議論が行われました。

→新たな考え方、FS調査の情報

(http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/mizukokudo_sewerage_tk_000314.html)

●総務省「公営企業の経営に当たっての留意事項」の発出について【国土交通省】

総務省において、8月29日、公営企業の経営健全化等についての留意事項等を取りまとめた「公営企業の経営に当たっての留意事項について」を地方公共団体に通知し、あわせて、今後の公営企業会計の適用拡大についての総務省の取組の考え方を取りまとめた「公営企業会計の適用拡大に向けたロードマップ」を、執務上の参考資料として地方公共団体に対して送付しており、同時に、総務省ホームページにおいて公表されていますので、お知らせいたします。

→総務省 URL:http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01zaisei06_02000083.html

「公営企業の経営に当たっての留意事項」は、主に、本年3月に取りまとめられた「公営企業の経営戦略の策定等に関する研究会」報告書のポイントを盛り込んだ形で、平成21年7月8日に発出された同通知を改正したものとなっており、各地方公共団体に対して、投資試算と財源試算を均衡させた「投資・財政計画」を中心とした「経営戦略」を策定し、経営基盤強化と財政マネジメントの向上に取り組むことが必要であるとしています。「公営企業会計の適用拡大に向けたロードマップ」は、本年3月に取りまとめられた「地方公営企業法の適用に関する研究会」報告書において、「法制化の時期を見据えた今後のロードマップを早急に示すべき」とされていたことから今般公表されたものです。同通知は、公営企業の一般的な取り組みの方向性を示したのですが、「経営戦略」については、新下水道ビジョンにおいて示されている「事業管理計画制度（仮称）」と共通の課題に向けた方向性を示しており、国土交通省としても、今後も総務省と連携して、施設管理、経営管理の両面から下水道事業の持続的な事業管理を推進してまいりたいと考えています。

●JICA草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）『ベトナム国ハイフォン市下水道維持管理能力向上プロジェクト』採択内定【北九州市】

北九州市上下水道局とハイフォン下水道排水公社は、平成22年11月に覚書を締結し、下水道技術交流を活発に進めています。ハイフォン市は、同市初めての下水処理場に着工（平成29年供用開始予定）したところであり、下水道事業が本格化する中、老朽管対策や増大する管路施設の維持管理が課題となっています。今般の採択内定を受け、今後、ハイフォン市下水道事業の推進に向けて、地元企業と共同で北九州市上下水道局では初めてとなる下水道管路施設維持管理の技術協力を行って参ります。詳細は、下記HPをご参照ください。

→ http://www.suidou.city.kitakyushu.lg.jp/suidou/menu02/c2_14.html#140904

●B-DASH(管渠マネジメントシステム技術) ガイドライン(案) 説明会のお知らせ【国土交通省国土技術政策総合研究所】

国土交通省国土技術政策総合研究所では、同省下水道部とともに、下水道革新的技術実証事業（B-DASH プロジェクト）を実施しているところですが、平成25年度に実施した「スクリーニング調査技術を核とした管渠マネジメントシステム技術」の実証研究に関しまして、研究成果を踏まえ、管路維持管理に携わる地方公共団体、調査会社、コンサルタント、機材メーカーの方々が革新的技術の導入を検討する際のガイドラインを近日中に刊行する予定です。つきましては、実証された技術の円滑な導入と普及展開を図るため、ガイドライン説明会を、（東京会場（10/1 午前、下水道協会 ←締切ました。）及び大阪会場（9/26 午後、大阪合同庁舎）で開催します。参加希望の方は、下記HPより申込みフォームを入手の上、事前申込み（9/19 まで）をお願いします。

→ <http://www.nilim.go.jp/lab/ebg/index.htm>

●第4回流総計画再構築検討会が開催されました【国土交通省】

平成24年度に設置した水環境マネジメント検討会報告等を踏まえ、流域別下水道整備総合計画（流総計画）を新たに再構築すべく、第4回流総計画再構築検討会（委員長：岡本誠一郎土木研究所水質チーム上席研究員）が8月26日（火）に開催されました。今回の検討会では、水質環境基準以外のエネルギー等の多様な目標の設定、概ね10年サイクルでの中期整備事項の策定等の「能動的・機動的」という新たなコンセプトの下、流域単位の水・資源・エネルギーの総合マネジメントのための流総計画へと大改革を図る「流総指針と解説」の改定案が概ね了承されました。国土交通省では、新たな流総指針について、今年度内に公表することとしています。

→流総再構築検討会の情報

(http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewage/mizukokudo_sewage_tk_000311.html)

●第22回「下水道循環のみち研究会」セミナーについて

【（一社）日本下水道施設業協会】

今回のセミナーは、永年日本の下水道事業をリードしてこられた前国土交通省下水道部長の岡久宏史氏をお招きして、下水道ビジョン2100「下水道から循環のみちへ100年の計」（平成17年）策定以降の展開、そして、今回の新ビジョンをうけての今後の展望についてお話を伺い、意見交換させていただきます。多数の皆様方のご参加をお待ちしております。

- ・テーマ：「循環のみちーこれまでとこれから」
- ・講師：前国土交通省下水道部長 岡久宏史氏
- ・日時：平成26年10月2日（木）15：30～18：00
- ・場所：日本下水道施設業協会 大会議室
東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館2階
- ・費用：当協会員・公共団体等 1,000円 その他の方 2,000円
- ・申し込み方法

参加ご希望の方は、日本下水道施設業協会のHP新着情報(<http://www.siset.or.jp/>)をご覧ください、9月22日（月）までにお申し込みください。

●テレビ東京「未来世紀ジパング」(9/8、22時~放送予定)で、「世界を救う日本の水ビジネス」が放映されます。【国土交通省】

ナビゲーターは、グローバルウォータージャパンの吉村和就氏です。

→テレビ東京のHP (<http://www.tv-tokyo.co.jp/zipangu/next/>)

=====

◆藻から燃料 石油に代わる? <9/1 読売新聞>

<http://www.yomiuri.co.jp/eco/feature/C0005563/20140825-0YT8T50086.html>

◆下水汚泥メタンで発電 来年10月から <9/3 読売新聞>

http://www.yomiuri.co.jp/local/yamagata/news/20140902-0YTNT50317.html?from=ycont_top_txt

◆広島土砂災害:下水道 復旧に数カ月か 28カ所破損など <9/3 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/select/news/20140903k0000m040198000c.html>

◆Pen+のムック『下水道のチカラ』が国土交通大臣賞(循環のみち下水道賞)グランプリを受賞! <9/3 msn産経ニュース>

<http://sankei.jp.msn.com/economy/news/140903/pr114090316100115-n1.htm>

◆災害時の心得を伝えたい…紀伊水害3年 <9/3 読売新聞>

<http://www.yomiuri.co.jp/osaka/news/20140903-0Y01T50044.html>

◆京都市8月雨量487ミリ <9/4 読売新聞>

<http://www.yomiuri.co.jp/local/kyoto/news/20140903-0YTNT50438.html>

◆NEC、漏水の遠隔検知を世界展開 10カ国以上で受注活動 <9/5 日本経済新聞>

http://www.nikkei.com/article/DGXLASDZ0405J_U4A900C1TJ1000/

◆下水道まつり復活 7日田村で開催 <8/30 福島民報>

<http://www.minpo.jp/news/detail/2014083017763>

◆終末処理場を一般公開/釧路市 <9/3 釧路新聞>

<http://www.news-kushiro.jp/news/20140903/201409035.html>

◆下水道・浄化槽の普及啓発パネル展始まる <9/3 OBSニュース>

<http://www.e-obs.com/news/detail.php?id=09030027651&day=20140903>

発行元：公益財団法人 日本下水道新技術機構 企画部

〒162-0811 東京都新宿区水道町3番1号 水道町ビル 7F

TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512

ホームページ：<http://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えしたい情報をお持ちの方はこちらから → jiwet@jiwet.or.jp

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせはこちらから

→ jiwet@jiwet.or.jp

○ニュースレターはこちらから

→ <http://www.jiwet.or.jp/newsletter/20140410/>

○ニュースレタークイズの答えはこちらから

→ <http://www.jiwet.or.jp/newsletter/20140410/seikai6.pdf>

